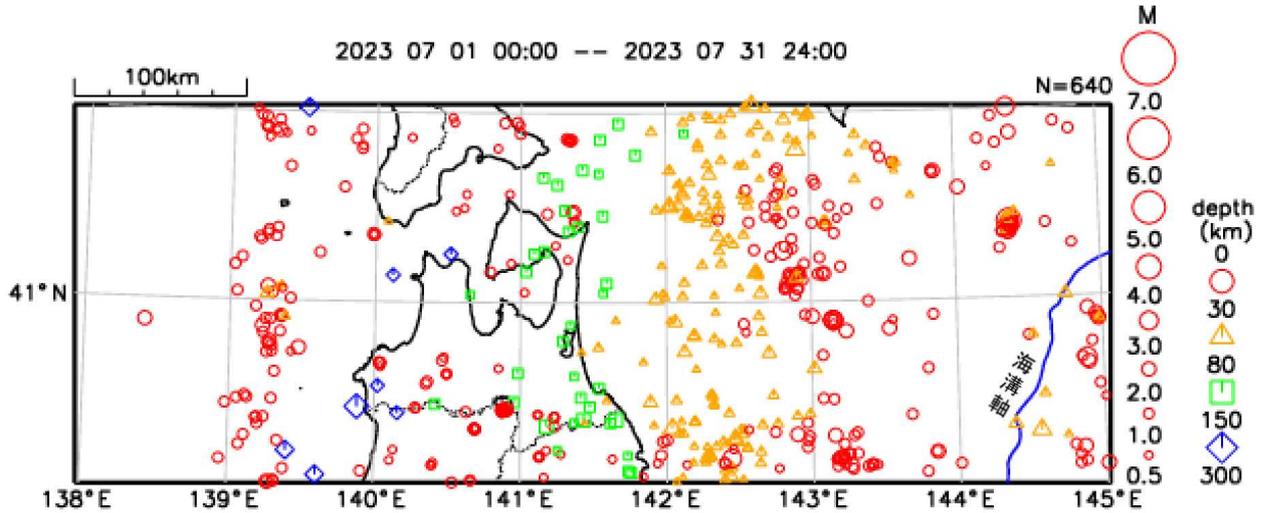


青森県月間地震概況

2023年7月

青森地方気象台

震央分布図



震央：震源（地下の岩盤破壊が最初に始まった点）の真上に向かって地表に投影した点
M（マグニチュード）：地震の規模

【7月の地震概況】

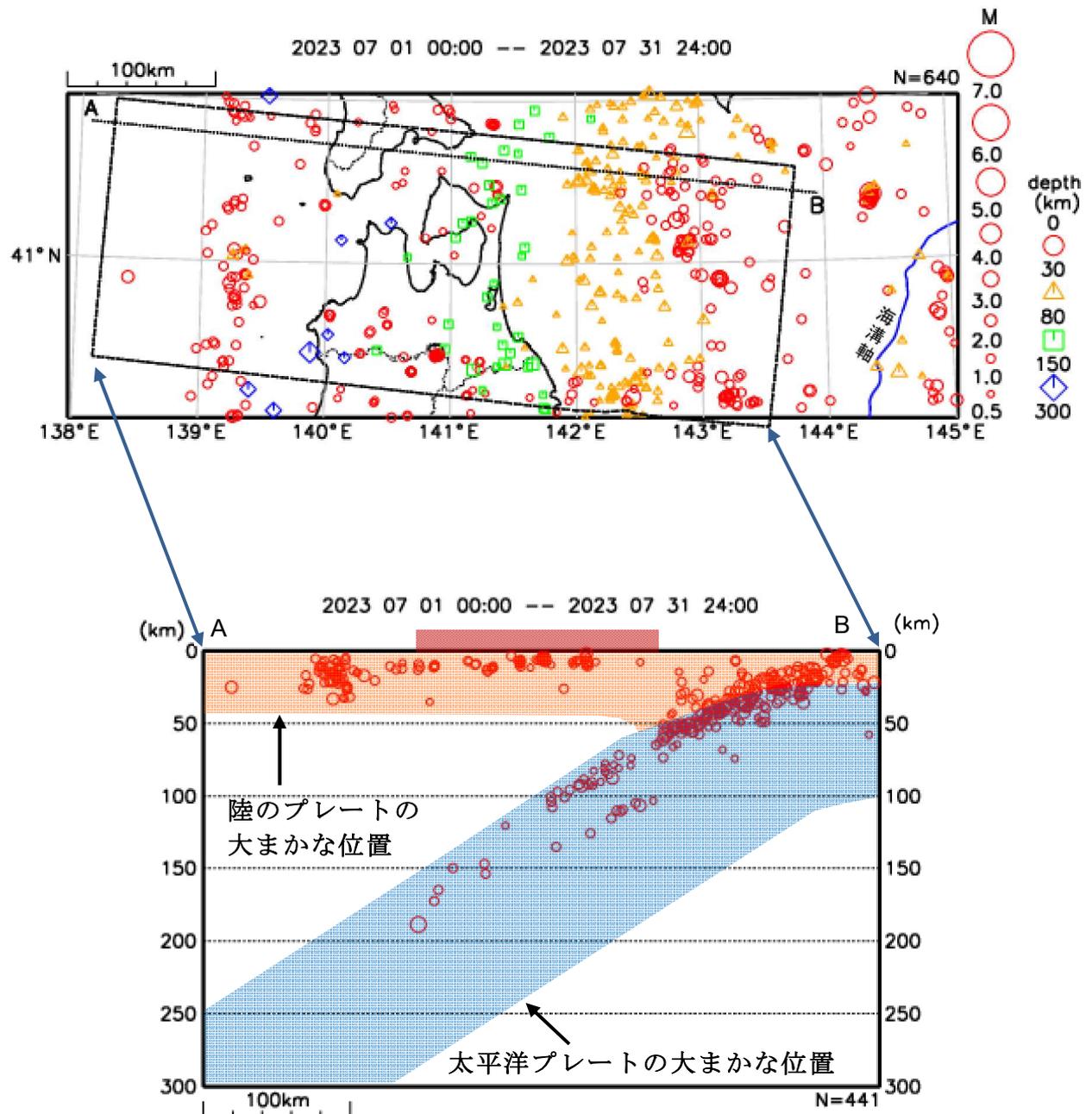
この期間、青森県とその周辺を震源とする地震の回数は640回、県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震は5回であった。

13日13時43分に岩手県沖の深さ34km（図の範囲外）でM5.0の地震が発生し、北海道、青森県、岩手県、秋田県、宮城県で震度2～1を観測した。県内では、八戸市、五戸町、おいらせ町などで震度2を観測するなど、下北、三八上北及び津軽の一部で震度2～1を観測した。この地震は、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

各地の震度の詳細については「青森県で震度1以上を観測した地震の表」を参照。

地震の震源要素及び震度データは、再調査により変更することがある。

断面図（震央分布図内の破線領域内のA点からB点の断面における震源の深さ）



※太平洋プレート及び陸のプレートの位置は、地震発生状況を考慮して描いた大まかなものである。

※ は陸地の大まかな位置を示している。

※陸地から離れた海域（概ね陸地から200km以遠）ほど、震源の深さに関する精度は良くない。なお、沖合の地震の震源は、実際はより浅いところのものが多いと考えられる。

青森県で震度 1 以上を観測した地震の表

※今後の精査により、震源や震度のデータが追加されることがある。

期間 2023年7月1日～2023年7月31日

発震時	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
各地の震度					
2023年07月07日13時59分	岩手県沖	40° 16.7' N	142° 27.8' E	35km	M3.9
青森県	震度 1 : 五戸町古館 青森南部町苫米地*				
2023年07月09日03時35分	秋田県内陸北部	40° 25.5' N	140° 37.7' E	4km	M1.7
青森県	震度 1 : 平川市碓ヶ関*				
2023年07月13日05時41分	岩手県沖	40° 20.3' N	142° 02.2' E	52km	M3.7
青森県	震度 1 : 八戸市湊町 八戸市内丸* 八戸市南郷* 青森南部町苫米地* 階上町道仏*				
2023年07月13日13時43分	岩手県沖	40° 02.1' N	142° 43.3' E	34km	M5.0
青森県	震度 2 : 八戸市南郷* 五戸町古館 青森南部町苫米地* 階上町道仏* おいらせ町中下田* 震度 1 : 青森市花園 外ヶ浜町蟹田* 八戸市湊町 八戸市内丸* 十和田市西二番町* 十和田市西十二番町* 三沢市桜町* 七戸町森ノ上* 七戸町七戸* 六戸町犬落瀬* 横浜町林ノ脇* 横浜町寺下* 東北町上北南* 東北町塔ノ沢山* 六ヶ所村尾駱 三戸町在府小路町* 五戸町倉石中市* 田子町田子* 青森南部町沖田面* 青森南部町平* おいらせ町上明堂* むつ市金曲 むつ市大畑町中島* むつ市川内町* 東通村砂子又蒲谷地 東通村砂子又沢内*				
2023年07月27日20時06分	北海道東方沖	43° 59.6' N	147° 37.0' E	85km	M5.2
青森県	震度 1 : 八戸市湊町 東通村砂子又沢内*				

(注) 地震の震源要素等は、再調査により変更することがある。

各地の震度は青森県のみを示し、*は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点である。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

津波発生と伝播のしくみ

津波は、地震などによって生じた海底の隆起・沈降に伴い発生した海水の波が、四方八方へ広がって伝わる現象です。

「津波の前には必ず潮が引く」という言い伝えがありますが、必ずしもそうではありません。

地震を発生させた地下の断層の傾きや方向、津波が発生した場所と海岸との位置関係によっては、潮が引くことなく最初に大きな波が海岸に押し寄せる場合もあります。



図1 津波発生の仕組み

津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合ではジェット機に匹敵する速さで伝わります。逆に、水深が浅くなるほど速度が遅くなるため、津波が陸地に近づくにつれ、あとから来る波が前の津波に追いつき、波高が高くなります。

水深が浅いところで遅くなるといっても、人が走って逃げ切れるものではありません。海岸付近で大きな揺れを感じた場合や、津波警報等が発表されたことをテレビやラジオ、インターネット、津波フラッグ、緊急速報メール等で知った場合は、実際に津波が見えていなくても、速やかに海辺や川辺から離れ、より高い安全な場所へ避難してください。

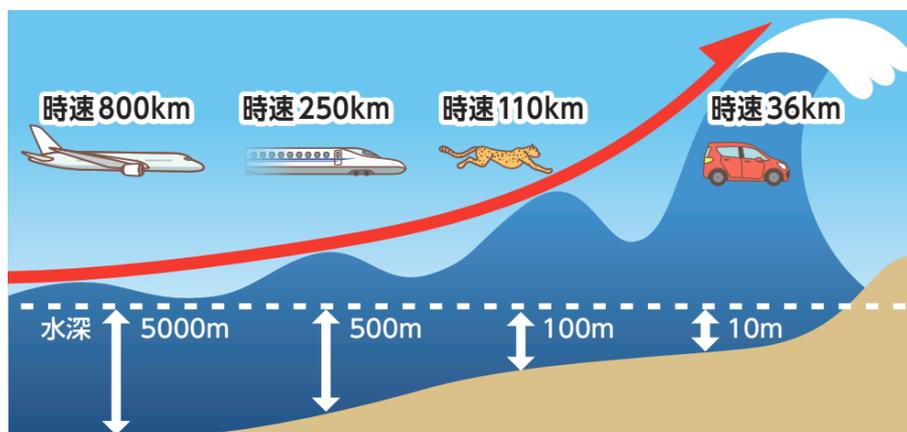


図2 津波の伝わる速さと高さ

気象庁ホームページには、津波に関する知識や避難のポイントを、実際の映像やCG、インタビュー等により解説した動画があります。

下記のURLよりご覧いただけますので、津波への備えに是非ご活用ください。

「津波に備える」https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami_dvd_sonaeru/index.html